

ワイン魂

ワルシャワ大学日本学科 4年生 マチエイ・コモロフスキ

皆さん、今日の私の発表はただ面白いだけでなく、人生における深い意味も隠されています。テーマはアルコールです。楽しみながらも、注意して聞いて下さい。

私はポーランド人で、ワインの愛好家です。ポーランド人とワイン？ おかしい組み合わせだと思いませんか？ スラブ人がお酒に強いことは、確かに世界中でよく知られています。なるほどポーランド人も昔からお酒をたくさん飲む国民です。でもポーランド人が飲むお酒の種類を見てみると、一般的に人気があるのはウォッカとビールだけで、ワインを選ぶ人はかなり少ないのです。世界中で毎年ぶどう酒は何億リットルと飲まれているのに、なぜポーランド人はワインの鑑定家になれないのでしょうか。

その疑問に答えるには、ポーランド人のお酒の飲み方について調査する必要があります。まず、いつ飲むかという点ですが、ポーランド人にとって「お酒はいつでも飲める」というのは常識です。だから、お酒は単なる暇つぶしです。大島渚の「青春残酷物語」の主人公は「楽しい時にだけお酒をのむ。喜びを二倍にも三倍にもするために。」と言いますが、ポーランド人は楽しい時のみならず、悲しい時もうれしい時も、怒った時も飲みます。次にどこで飲むかですが、主にパーティーで飲むことが多いです。さらに何のために飲むかという点、お酒を飲んだら女の子とダンスをする勇気も出るし、酒の席での過ちもすぐ忘れることができるからです。しかし残念なことに、パーティーでは皆すぐ酔っ払うので飲み物の味は気にしません。味に注意せずにワインを飲むのは、大変もったいないことです。

ワインは人々の知識と努力と情熱と愛国の賜物（たまもの）です。ワイン農家の人々は、良質なぶどうを収穫するため、様々な工夫をし、丹精こめてぶどうを育てます。その間（かん）には天候不順や害虫の発生など、多くの困難があったことでしょう。そのような困難を乗り越えてつくられたワインには、人々の誇り、愛情、つまり魂そのものがこめられているのです。このワイン魂を余すところなく楽しむには、美味しい料理をいただきながら、また、大切な人とのんびり会話しながら、ワインに意識を集中しなければならないのです。

ワインの色や香り、味を鑑賞するのに、パーティーは必要ではありません。ワインを飲むという行為を暇つぶしにしてはいけません。ワインを飲むということは、まさに人生そのものです。三島由紀夫は自決前に「時間の一滴一滴が葡萄酒のように感じられる」と書きました。私も、ワインの鑑賞のように、生活を一滴一滴楽しむことは非常に大切だと思います。さあ、皆さんも一緒にワイン魂を楽しんでみませんか？